

焼畑を通じた持続可能な 農業の実践

里山焼かんかね？

生物資源科学部 環境共生科学科 3年 岡田愛世

主な発表内容

○里山焼かんかね？とは

○奥出雲町との連携事業

○なぜ焼畑なのか

里山焼かんかね？とは

○概要

愛称：さとかん

設立 2015年

部員数 25名



主な活動内容

- ・毎週1回の勉強会・ミーティング(学内)
- ・毎週1回の作業(奥出雲町 ダムの見える牧場)

里山焼かんかね？とは

春
竹林の伐採

○作業の流れ

3月29日

→

5月18日



里山焼かんかね？とは

○作業の流れ

初夏
火入れ



里山焼かんかね？とは

○作業の流れ

夏

播種

育成管理

作物

- ・ トウモロコシ
- ・ ツルアズキ
- ・ サトイモ
- ・ 楮、三桮



里山焼かんかね？とは

○作業の流れ

秋・冬

収穫

収穫物の利用



自治体との連携事業

○奥出雲町との共同事業

- 耕作放棄地の活用
- 地域住民との交流
- 地域コミュニティへの若者の参画

自治体との連携事業

地元学校での説明会の様子



なぜ焼畑なのか

○焼畑とは

伐採→焼却→作物栽培→休閑→森林再生



自然の遷移を利用した**循環的**な農耕
適切な管理をすれば持続可能な管理手法

なぜ焼畑なのか

○焼畑のメリット

- ・炭の効果

（水・栄養を保持、微生物の住処、通気性）

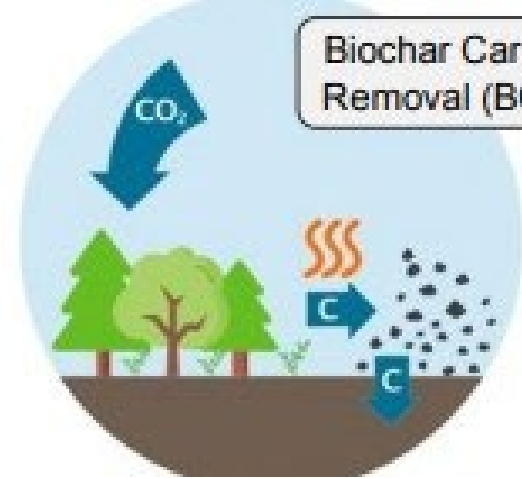
- ・病気や害虫が発生しにくい

（雑草の除去、病原菌の死滅）

⇒肥料・農薬・耕起が不要＝低コスト

- ・害獣による被害の抑制

なぜ焼畑なのか



○生物由来の炭 (Biochar)

土壤に埋めることで炭素を長期間固定

1000～10000年分解されない



「カーボンファーミング」

炭素排出削減と炭素固定に貢献

＝気候変動の緩和

〈参考〉European Biochar Market Report 2023_2024

なぜ焼畑なのか

○生物多様性の保全

定期的なかく乱を起こすことで、植生遷移を初期の状態に戻し、種の多様性を高める

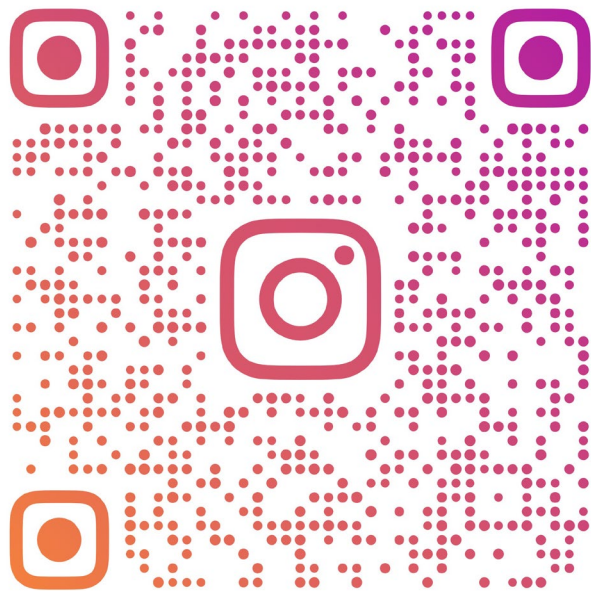
○昔の生活を知る

年中行事や儀礼と深い関わりをもつ

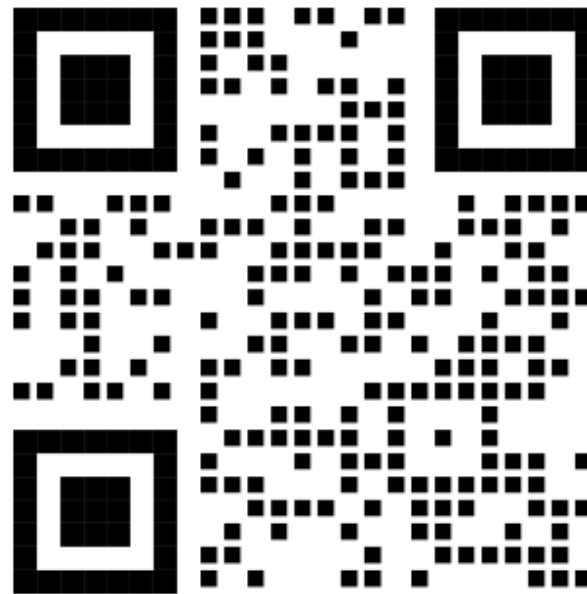
かつての日本人が山林をどのように利用してきたかを知る手がかりとなる

詳しくはSNSをご覧ください

イベント等への参加希望はこちらから！



YAKIHATASHIYOUZE



X



ご清聴ありがとうございました。